

関係各位

2023年7月26日

株式会社パテント・リザルト

【機械】他社牽制力ランキング 2022

トップ3は三菱重工、ダイキン、豊田自動織機

弊社はこのほど「機械業界」の特許を対象に、2022年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「機械業界 他社牽制力ランキング 2022」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

この結果、2022年に最も引用された企業は、1位 **三菱重工業**、2位 **ダイキン工業**、3位 **豊田自動織機**となりました。

【機械業界 他社牽制力ランキング 2022 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	三菱重工業	1,581
2位	ダイキン工業	1,143
3位	豊田自動織機	894
4位	IHI	708
5位	クボタ	696
6位	日本精工	653
7位	ヤンマーパワーテクノロジー	568
8位	NTN	548
9位	日立建機	516
10位	川崎重工業	465

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2022年12月までに公開された全特許のうち、2022年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2023年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **三菱重工業**の最も引用された特許は「複数の資材から製品を得る製造プロセスのための生産管理システム」に関する技術で、横河電機やNECなどの計5件の審査過程で引用されています。このほかには「電力需要予測装置、電力供給システム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、本田技研工業などの計4件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、三菱重工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（56件）、次いで三菱電機（43件）、東芝（37件）となっています。

2位 **ダイキン工業**の最も引用された特許は「パワー素子を備えた冷凍装置の電装品ユニットに関し、強電部品から生じるノイズが弱電部品に与える影響を抑制しつつ電装品ユニットの小型化を図る冷凍装置」に関する技術で、富士通ゼネラルの計6件の審査過程で引用されています。このほか「空調制御システム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、富士通ゼネラルや三菱電機の計4件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、ダイキン工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は三菱電機（136件）、次いでパナソニックホールディングス（67件）です。

3位 **豊田自動織機**の最も引用された特許は「スモーク及び未燃分の燃料を低減することができる内燃機関」に関する技術で、マツダの「ディーゼルエンジンの燃料噴射制御装置」関連特許など計7件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2022年に、豊田自動織機の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（72件）、次いでデンソー（39件）となっています。

4位 **IHI**は「爆発物探知システム」、5位 **クボタ**は「走行経路に沿って作業走行する自動走行作業車」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【機械業界 他社牽制力ランキング 2022データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データー式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください）

- ・ランキング トップ50社：本業界の被引用件数上位50社のランキング
- ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp